



畜産総合センターようじん通信

平成30年11月

◇譲渡可能頭数について

W♀

生まれ月	頭数
3月	25
4月	37
5月	25
6月	20

D♂

生まれ月	精液検査 済み(頭)	精液検査 未実施(頭)
1月	6	2
2月	8	2
3月	7	1
4月	3	6
5月	0	12

11月1日時点の譲渡可能頭数は上記のとおりです。他の品種もご用意できます。
現在、譲渡待ちはなく、希望順に譲渡しておりますので、早めにご連絡いただければ幸いです。

★農家選畜も再開しました。またご利用いただければ幸いです。

○当所の最高齢のデュロック♂D506

当所では、「生きたまま遺伝資源を保存する」ため、一般の農場より長く種豚を飼養しています。オスについても、精液性状等が良好で人工授精のための精液採取が問題なくできていれば、供用を続けています。

現在、最高齢となった8歳のデュロック種のオス、D506は、受胎率も高く、生産される子豚も体型が良好で譲渡率が高いなど、当所の種豚生産に長年貢献してきました。しかしながら最近、高齢のためか若干乗駕が不安定になってきたため、この豚の子孫を新たに後継豚として登録することにしました。

先代のように、長期に渡り質の良い種豚を生産し、活躍してくれることを期待します。

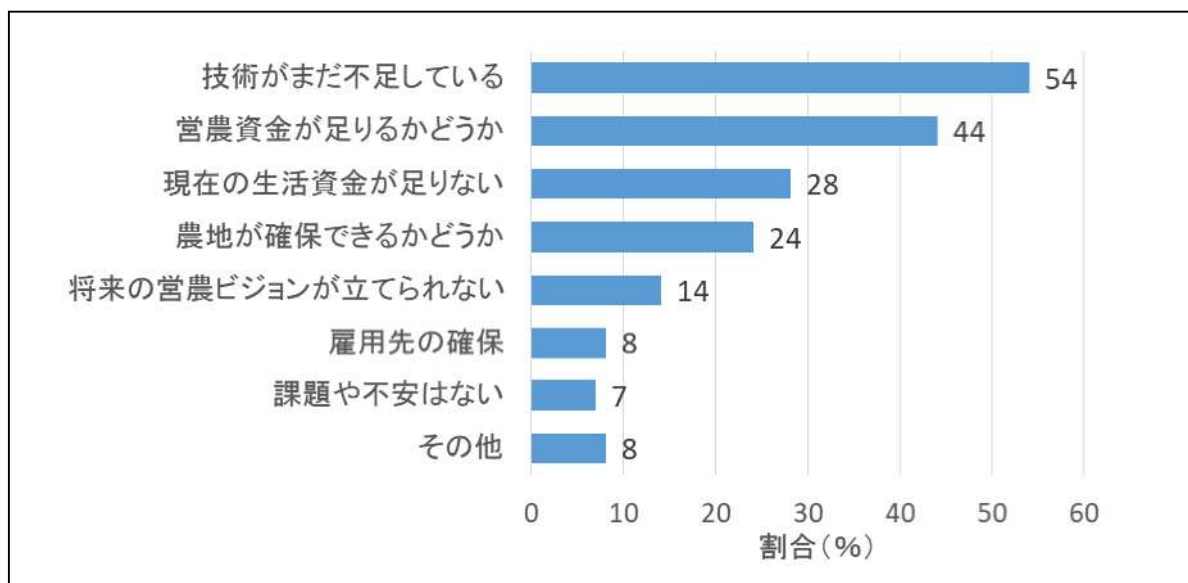


○後継者の方々の技術習得を支援します

近年は、毎年農家戸数が減少しており、皆さまの周辺でも廃業等の声を聞くことがあるのではないかと思います。

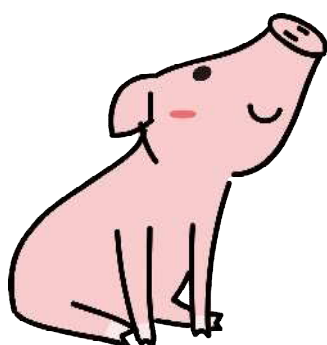
一方、農林水産省（以下、農水省）が毎年実施している新規就農者調査によれば、H29年度は過去10年間において49歳以下の農業への新規参入者が最も多く、愛知県の養豚においては、規模拡大と同時に後継者への継承も進んでいるようです。廃業が増えている一方で、一部では農業の担い手が世代交代しつつあるとも言えます。

同じく農水省が実施した新規就農者（耕種・畜産含む）を対象としたアンケート調査（下図）によれば、将来最も課題や不安に思うこととして、半数以上の人々が「技術がまだ不足している」ことを挙げています。



1戸あたりの規模拡大、効率化及び機械化が進んでも、畜産業が「人」なくして成り立たないことに変わりはありません。当所では、後継者や畜産を支える方々の人材育成を目的として、下記のような機会を設けております。習得したい技術があれば、まずはご相談いただければ幸いです。

	内容
畜産技術練習生	<ul style="list-style-type: none"> ・豚の生産技術全般（実習） ・1年単位で受講（毎年1月に募集）
豚人工授精師講習会	<ul style="list-style-type: none"> ・豚の人工授精及び繁殖管理（座学・実習・資格試験） ・隔年開催（次回はH32）
家畜商講習	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜取引（座学・資格試験） ・3年に1回開催（次回はH33）
農家選畜	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な種豚の審査方法（候補豚の選抜方法） ・常時受付（購入予定がなくても受け付けます）
各種技術相談	（極力対応したいと思いますので、お気軽に当所または地域の県関係機関を通じてご相談ください）



併せて、様々な時代を乗り越え、長年養豚業に貢献してきた皆さまの、熟練した生産技術及び経営における創意工夫が、地域で伝承されていくことを願います。